

「家伝秘録」からみた 山村の近世史

— 金子照泰の精神世界 —

藤井茂樹 著

みやま文庫

はじめに

昭和四十年代前半までに中学・高校で学んだ江戸時代は、士農工商の厳格な身分制度にしばられた暗いイメージでした。また農民は、幕府や大名による「生かさず殺さず」の重い年貢に苦しめられ、衣類は麻と木綿だけ、酒や茶を買って飲んではならない等、さまざまな拘束を受けひどい暮らしだったと教わりました。

ところが実際はそうではなく、お茶も酒も飲み、また近所の人と連れ立って伊勢参りに出かけたり、野良仕事をしない日を決めて村中で踊りを楽しんだりしたこと等が、地方の町や村に残る古文書や記録から明らかになってきました。

有名な「慶安の御触書」も、今では元禄十年（一六九七）に甲斐国甲府藩の家臣が編んだ、農民への教諭書だったとされています（山本英二『慶安の触書は出されたか』）。また近世中期には名主を選挙で選ぶ村が多くなりましたが、それは農民が読み書きできたことを示すと同時に、名主を頂点とする村の自治的秩序が形成されたことを示しています。

江戸時代の農民は読み書きができず、苗字もなかったと思ひ込んでいる人が今もいるかもしれませんが、そうではなかったのです。このような誤った江戸時代像は、徳川幕府が治めた時代を

「悪しき世」と思わせ、維新以来の新政府に期待を持たせようとする明治政府の喧伝によってもたらされました。しかし現在は、第二次大戦後の自由で実証的な地域史研究の蓄積により、それらの多くは修正されています。

特に昭和が平成にかわった頃から注目され始めた出版文化や情報史の研究は、歴史上の出来事以上にその時代を生きた人々の内面に迫り、江戸後期には江戸、京都、大坂の三都ばかりでなく、日本中の津々浦々まであらゆる情報が行き届き、地方特有の個性豊かな文化が花開いていたことを明らかにしてきました。

その要因となる重要な歴史的背景は、二六五年もの長きにわたり平和が続いたことです。

江戸時代に入ると人々の生産活動が活発になり、物資の流通や交通網の発達とともに、人の移動と交流も広範囲に広がっていきました。

そこで、「そのように人々を突き動かしたのは何だったのだろうか」と考えた時、それは情報ではなかったらうかと思われます。

情報と言えば、戦国大名の生き残りを左右するほど、人々の判断や行動を促し、目に見えないところで社会を動かしてきました。それが平和な江戸時代にあつては、書物出版や飛脚便の発達を背景に、よりよい暮らしを模索する羅針盤として広く認知されるようになり、ひいては社会そのものを発達、変革させる原動力になったのではないかと考えています。

本書で紹介する「家伝秘録」かでんひろくは、生涯を上州の山村に暮らしながらも多様な情報に接し、知の世界に生きた文人の目で、江戸後期の具体的な政治、社会、文化の実態を書き残した記録です。

著者の金子重右衛門照泰てるやす（一七二四～一八二二）は、赤城山の北側に位置する利根郡大原村（現沼田市利根町）で、江戸時代中期から後期にかけて生きた農民ですが、名主等の村役を献身的に務める傍ら、俳句の宗匠、郷土史家、絵図師の横顔をもち、数多くの著作を残しました。また東北から四国まで歴遊し、諸国に多くの文通相手をもつ在村文人でもありました。

中でも十五巻からなる「家伝秘録」は、祖先が書き残した書類や覚書と照泰の経験や見聞を、年代順に四五八件綴った記録で、当時の村社会や人々の生活実態、幕府等領主の動向やその支配、諸国の天変地異や出来事等々、様々な歴史事実が眠っている貴重な史料ともいえます。

また利根の山村に暮らす照泰が、遠国で起きた一揆や災害のことまで記録していることには驚きます。京都や仙台等の知人が飛脚を介した文通で知らせたのですが、近世後期には既に情報社会であったことを物語っています。尊皇思想を広めた太田の高山彦九郎も知人の一人でした。

このような記録が残されていたことに、目からうろこが落ちるような驚きを覚えると同時に、想像以上に文化水準が高まり、情報システムが発達した近世という時代を、改めて見直さなければならぬと痛感します。

家伝秘録は、照泰が八一歳の時に十二巻で完結しましたが、その後十三巻、十四巻、十五巻を

補足し全十五卷になりました。しかし二二六年の歳月を経た今、残念なことに二卷、六卷、九卷、十一卷、十三卷の五冊が散逸しています。

そのうち六卷は他家に保管されていますが、その他は所在不明です。但し十二卷目までは照泰が目録を作成しておいてくれたので、十三卷目以外は各卷に書かれた項目のみですが知ることができます。卷末に項目一覧を付けたのでご参照いただければ幸いです。

目次

はじめに

第一章 大原村の風土と金子家	3
----------------	---

一 金子照泰が生きた大原村	3
---------------	---

北毛の地域特性／大原村の位置と概要／大原村の開発／大原村の草分け／

真田氏と大原新町／大原宿の発展と金子家

二 照泰の生育環境と文人への道	16
-----------------	----

金子氏の出自／大原への土着／金子美濃守とのつながり／金子家の発展／

経営状況の推移／曾祖父と祖父の影響／文人照泰の横顔

三 不幸・不運と闘った照泰の生涯	28
------------------	----

子どもたちの早世／妻の死と再婚／大吉の死と照泰の旅／元文・宝暦の出火／

寛政の出火／宿を追われて